

〈テーマ〉 数学的な表現を適切に用いて自力解決を引き出す取組（東松島市立大塩小学校）

【ねらいと特色】

本時では、倍の関係を除法を使って求める方法を考えさせることをねらいとしている。方法を考えさせるためには、題意を明確にイメージした上で立式させる必要がある。そこで2つの点を工夫して実践した。1つは数的な表現活動に取り組ませたことである。問題から立式に至るまでの思考をテープ図、言葉での説明、図等を活用させて思考を可視化させた。そうすることで、児童自身が式を意味付けして、乗法や除法と考えた理由を説明することにつながった。また、児童自身が自分の理解度を知ることで、ペア学習の際には「分からない部分」を伝える姿も見られた。もう1つは、既習事項が活用できるノートの取らせ方である。自力解決からペア、集団解決を経て気付いたことや分かったことをノートに残させ、次時以降の問題解決に活用できるものにさせた。友達の影響も蓄積させていくことで、児童にとって自力解決のツールとなった。また、様々な表現方法を知る機会にもなっていく、ほとんどの児童が何かしらの方法で、問題に取り組むことができた。ようになった。また観点を示した振り返りを累積させたことで、児童自身が学びを自己評価できた。また、教師も児童の実態を把握でき指導に生かすことができた。ペア学習の際に上位の児童が一方的に考えを伝えることがあり学び合いにまで至らなかった点はこれからの課題である。

【実践の概要】

